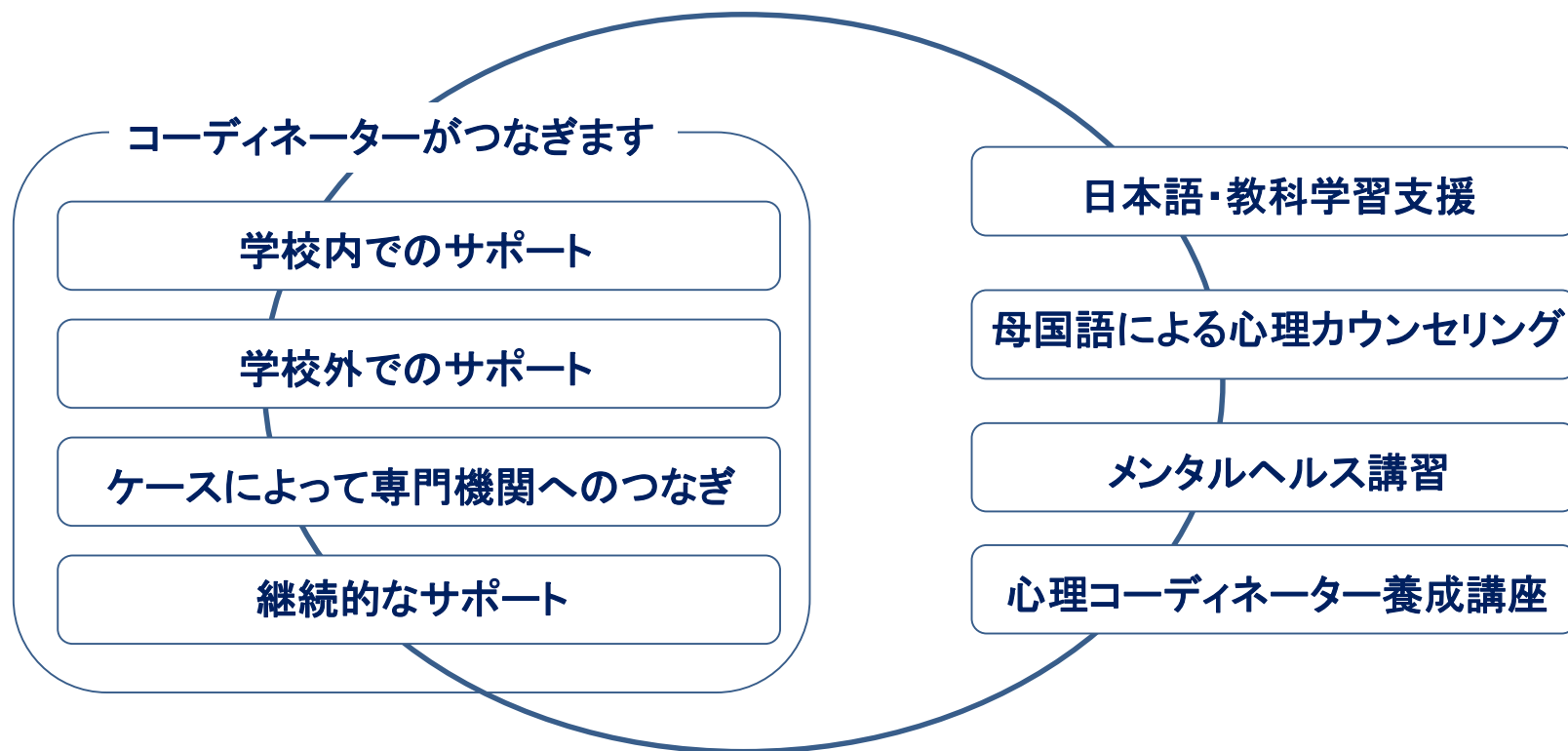


「外国人児童生徒等教育・心理サポート事業」

NPO法人 Gコミュニティ

1. 心理サポート事業

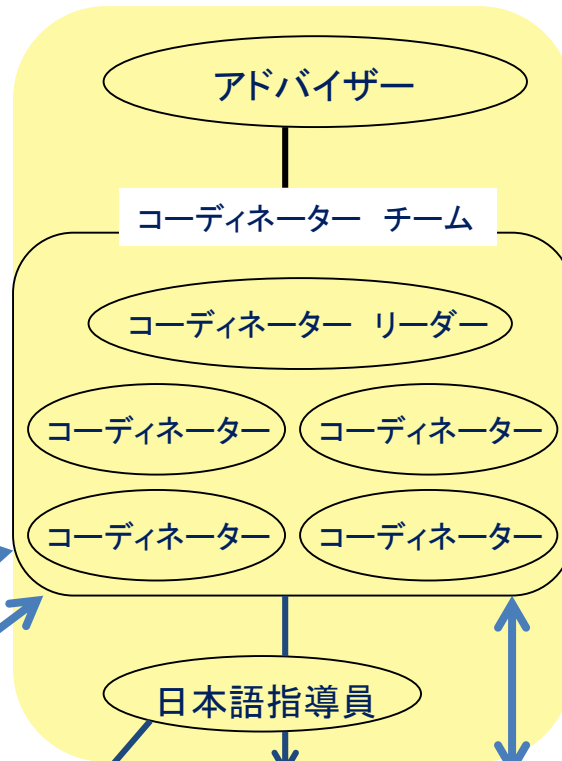
公立学校及び外国人学校において、不登校に陥る可能性の高い、または既に不登校・不就学に陥っている外国人児童生徒やその保護者について、心理カウンセリングなどの心理サポート、日本語指導・教科指導などの必要な支援を行います。これにより、不登校を防ぐことまたは不登校・不就学からの復帰を目指します。



サポート体制

コーディネーターチーム
連絡先 多々木梨絵
(たたき りえ)
080-8730-6969
ポルトガル語、スペイン語
英語、日本語

リーダー 本堂晴生



* 山田ビアンカ ポルトガル語、英語
** 田中ネリ スペイン語、英語、日本語

連携 ○ 心理専門家* (外国人)

連携 ○ 心理専門家** (外国人)

連携 ○ 専門機関
大学
児童相談所
保健福祉事務所等

教育委員会

学校内
○ スクールカウンセラー
○ 外国人の子ども
○ 相談員

学校外
○ 外国人の子ども

家庭
○ 外国人の子ども
○ 保護者

医療機関

地域人材養成

心理コーディネーター養成講座
(日本人、外国人)

本事業の心理サポートの特長

特長1 母国語による専門家の心理カウンセリング

心の内を気兼ねなく話すことができる

自分を見つめ直し、自分の気持ちを整理できる

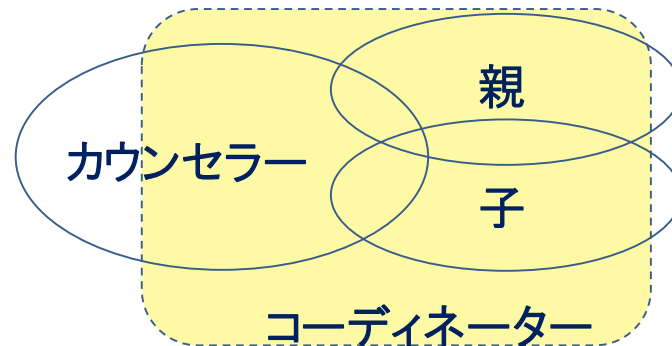
ある親子の
ケースでは

親の場合： 子どものことを考える気持ちの余裕が生まれた

子どもの場合： 親にも言えなかったことを話すことで親子の
理解が深まった

- コーディネーターの役割
- ・ 親にとって同志的な存在として、待ち時間での親との会話から、親はカウンセラーに話しきれなかったことを話すことがある。それが親の気持ちをさらに落ち着かせることになる、
 - ・ 待ち時間で子どもの様子を観察できる。

➡ カウンセリングを補完する



本事業の心理サポートの特長

特長2 学校との連携を大事にする

ただし、個人情報の扱いをいつも配慮

学校の外での事情を学校は知ることができる

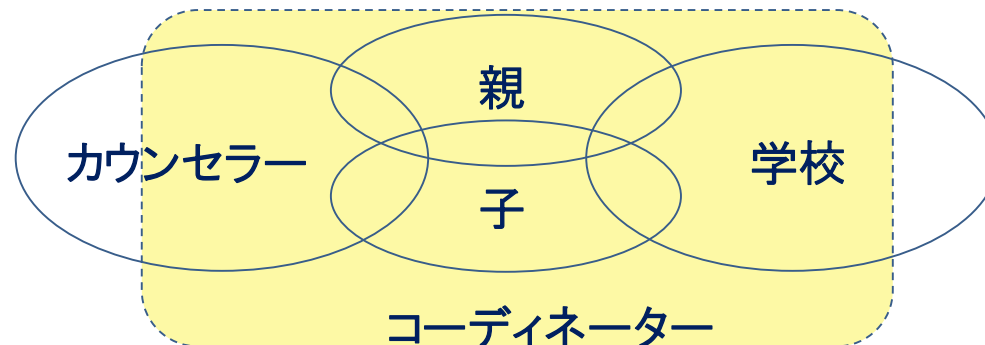
それを基に学校は親子の状況の理解を深め、的を得た対応ができる

学校の中での様子をカウンセラーは知ることができる

それを基にカウンセリングに活かせる

- コーディネーターの役割
- ・ 学校訪問により学校内での子どもの様子や学校側の理解を把握し、カウンセリングに反映する。
 - ・ カウンセリング結果についてさしつかえない範囲でかつ重要な情報を学校との打合せで伝え、学校の情報と突き合わせて次の段階への進展を図る。

➡ 学校側の理解を補完する。カウンセリングを補完する。



2015年6月～2018年3月の実績(34か月)

相談対象の児童生徒の数 105 人

支援回数(電話、面談) 479 回

内 専門家による
心理カウンセリング回数 239 回

2. 教育相談事業(『スクールホットライン群馬』)

様々な理由から単独では解決できない教育問題の相談が必要となった外国人児童生徒に関し、主に保護者からの各種相談等に**母国語による支援**を行います。

(1) **電話による教育相談**… 日本語力の不足等から学校に相談するのが難しい保護者が、まず迅速に相談できる窓口として電話相談による対応を行います。これによりどこに相談したらわからない保護者のファーストコンタクト先となることで、孤立化や事態の悪化を防ぐとともに、問題解決の道筋を提供します。

電話番号： 080-8730-6969

(2) **相談に役立つ情報提供資料の整備**… 知識・情報不足に起因する教育相談について、頻度の高いケースに基づき多言語による実践的な情報提供資料を作成・整備します。これを相談時に役立てるとともにウェブ上に公開し、初期対応情報を得やすくして問題の芽の小さい段階での改善につなげます。

(3) **必要に応じ面談対応**… 複雑な事情の問題については、必要に応じ面談対応を行います。また、心理サポートを要する問題は「外国人児童生徒心理サポート事業」につなぎます

教育相談で想定している主な内容:

これらの問題は、子どもの教育の問題となって現れます

言語 日本語がわからない(日本語習得の不安)、母語を学ばせたい(母語喪失の不安)、日本語・母国語共に遅れている(学校選択の悩み、国の選択の悩み)

学習 日本の学校の授業についていけない(学力の不安)

就学 不就学、不登校、外国人学校を経済的理由での退学(学校選択の悩み)

進学 高校進学・大学進学、受験、進路未確定(将来の不安)

学校 学校に行きたがらない、学校になじめない(孤立)、いじめ、教員との関係

友人 良くない友人との付き合い

家族 親子関係(親に対する子どもの態度、子どもに対する親の態度、虐待)、親の病気、DV

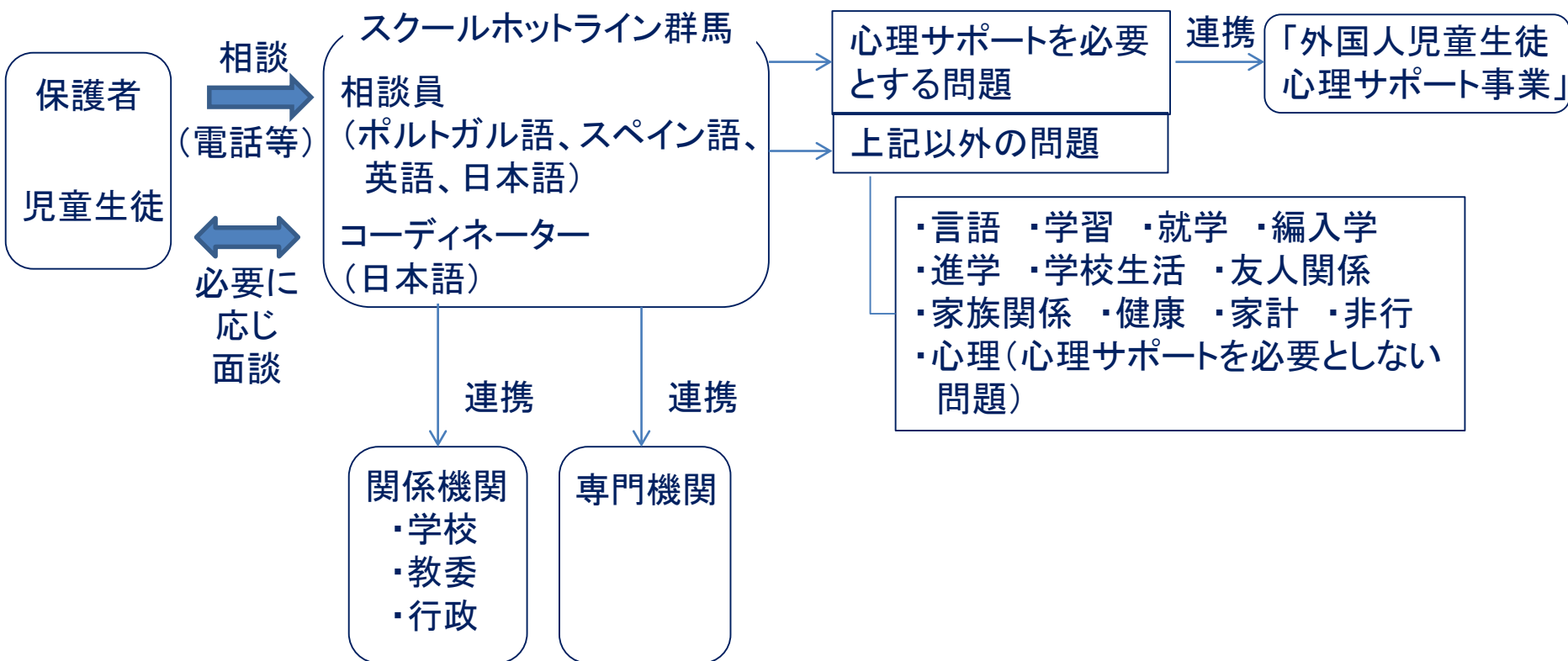
健康 親または子どもの病気

家計 教育資金の調達、奨学金・銀行ローン申請、失業、生活保護

犯罪 ドラッグ

心理 ストレス、不安、うつ、発達障害、自閉症⇒ 心理サポート事業へつなぐ

支援の流れ



2015年6月～2018年3月の実績(34か月)

相談対象の児童生徒の数	138 人
-------------	-------

支援回数(電話、面談等)	385 回
--------------	-------

主な相談内容

日本語学習・教科学習	45 件
進学相談(教育資金)	31 件
転校・編入・入学	27 件
進学相談(学校選択情報、受験のしくみ)	25 件
学校生活(友人関係など)	5 件
日本語の書類	3 件
体の病気	1 件
心理の問題(心理サポート事業へつなぐ)	4 件

いずれの事業も
支援の考え方は
『自律の後押し』

自律:

自分で考えることができ、自分で決めることができる